

第15回 〈ケア〉を考える会-岡山

■日時： 2015年2月11日(火) 14:00~16:30



■会場：川崎医療福祉大学 本館6階 6001演習室(定員35名)

<http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw/access/index.php>

※建物の1階(防災センター)から備え付けのスリッパに履き替えてお上がり下さい。

エレベーターで6階へ行きますと、降りた正面に案内標識があります。

駐車場を利用の場合は、福祉大学の職員・学生駐車場(病院とは道をはさんで反対側)をご利用ください。

■会費：無料 どなたでも参加できます。気軽にご参加ください。

■テーマ： 患者をめぐる”決定”を考える ～医療ソーシャルワーカーとしての経験から～

発表者：竹中 麻由美 氏 (川崎医療福祉大学医療福祉学部准教授)

— 以下、竹中氏から寄せられた発表内容趣旨を掲載します。 —

インフォームド・コンセントや自己決定のあり方については、医療の場でも議論が展開されてきました。老衰などにより身体機能の回復は困難だとされる高齢者やがん末期の人々に対する医療では、本人の意思をいかに確認するかがキーであることは明らかです。

今から約二十年前、まだ介護保険制度が成立していなかった時代に、私は高齢者医療の現場でソーシャルワーカーとして勤務していました。医療をめぐる情勢も社会資源も現代とは異なる時に、親の疾患に向き合う多くの家族の話を伺う機会がありました。必ず家族が残されるという現実の中で、家族の思いが決定に与える影響、そして決定が家族に与える影響を感じました。

また、一人でがん終末期に向き合う高齢者、お互いの老化が進行しつつも二人で暮らし続ける夫婦など、患者さん自身からも多くのお話を伺いました。

こうした個人的経験の一部を皆さんにお話することで、患者をめぐる「決定」の形を皆さんと共に考えたいと希望しています。



■呼びかけ人

大賀由花 (赤磐医師会病院/透析療法指導看護師)、河合清志 (社会福祉士)、小林真美、清水昭雄 (管理栄養士)、田中順子 (川崎医療福祉大学リハビリテーション学科/作業療法士)、林道也 (社会福祉士)、平松邦夫 (社会福祉士)、松川絵里 (カフェフィロ代表/大阪大学 CSCD 特任研究員)。

■参加申し込み・問い合わせ：884michiya@gmail.com 090-5366-1497 (林) できれば事前にお申し込みください。(満席となりお断りする場合にのみご連絡いたします。)

■懇親会……終了後に、会場近くの居酒屋で懇親会を開きます(希望者)

※ ホームページもご覧ください ⇒ <http://okayama-care.jimdo.com/>



「〈ケア〉を考える会-岡山」とは……

▼岡山(倉敷)で、〈ケア〉について学び考えています。

〈ケア〉について、身近なところから理念的なものまで、そして、狭い意味から広い意味まで、幅広く深く考えていきます。

▼この会の参加者は、医療・看護・介護・福祉・教育などの現場、または地域や家庭などで〈ケア〉に関わっている方、大学や学校で〈ケア〉の教育・研究に携わる方や学んでいる方、さらに、その他、〈ケア〉に関心や関係のある方などです。

〈ケア〉に関わる人たちが学び交流することで、明日からの力を得る〈場〉となることを願います。

▼会では、本を読んだり、または、人の話を聞いたりして、語りあいます。

そして、会の後には、会場近くの居酒屋で懇親会を開きます(希望者)。

学び、語り合い、そして、食べ、飲み、さらに、語り合う。この会は参加者の“つながり”を大切にします。

